

柔道部員 公衆便所で

ベチヨベチヨ



体験版

オーツウエイ！ オーツウエイ！ オーツウエイ！

早朝、河川敷かせんじきに響く部員の掛声。

「このままグラウンドまでランニング！」

主将しゅしやうが先頭を走りながら大声で叫ぶと、大きな流れから

二列縦隊じゅうたいとなり二十数人の柔道着姿の部員たちが堤防ていぼうの土手を駆け上がる。早春の朝はまだ空気が冷たく、キツイトレーニングで身体を虐いじめていた部員たちの息は白い。

オーツウエイ！　オーツウエイ！　オーツウエイ！

集合時間には薄暗かった空がすっかり明るくなって、堤防を走る部員たちの頬ほほを朝日が照らし飛び散る汗が光る。

その最後尾おくれを走る少し遅れ気味な二人。

身体のデカイ黒帯が太り過ぎの白帯に言う。

「ああ、やべえ。糞もれそう……」

「我慢<sup>がまん</sup>してくださいよ」

「まだ走り始めたばかりじゃん。無理！」

「どうするんすか」

「そこの公園の便所行ってくる！」

「ええっ、主将に言ってから行ってくださいよ」

「ああ、お前言つといてくれ」

「嫌ヤですよおー、また主将に呵しかられますよお。この間の練習サボったときも、オレまで関係ないのに便所掃除させられちゃったじゃないですか！」

「大丈夫だよ。すぐ戻るから」

「ええっ、田島たじま先輩！もう、俺知りませんよ」

「たのんだぞー」

田島は隊列から逸それると、大きな身体を揺らしながら草の斜面を駆け下りて行った。

朝早いこの時間、誰もいない公園はブランコや滑すべり台が寂さみしげで寒々しい。田島は早足で駆けつつも少し内股に力を入れながら、木陰に佇たたずむ小さな公衆便所に飛び込んだ。すると入り口に小さな立て看板が。『清掃中』！

ゴリアテボックス

**友野 勇**

作品のご紹介

体験版

# Short Time 猥想短編小説集

古いアパートのガチムチ男を覗き見する啓介、しかし……

(のぞく)

部屋探して訪れたへんな不動産屋。格安物件の秘密とは……

(変態不動産)

ネットで見つけた誰も知らないスポーツジム。変態すぎる男たち

(専門ジム)

体験版

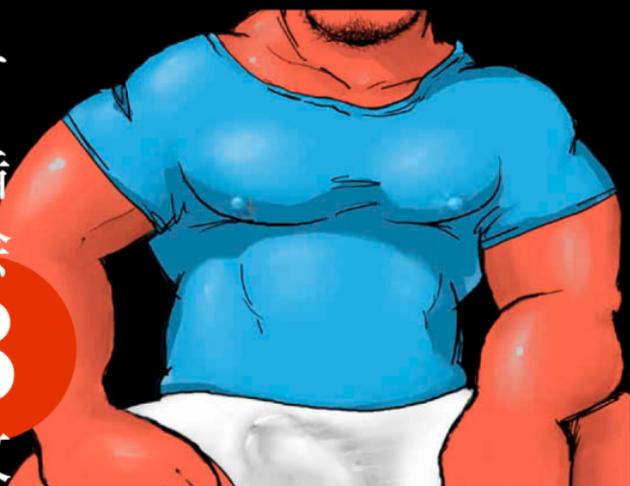


# Short Time

## 猥想短編小説集

ゴリアテボックス  
友野勇の小説

エロ挿絵  
8枚



体験版

# あざなぎ

鉄柵の向こうから覗く青い目が良二を深い淫猥な闇の中へと墮としていく。会社では尊敬される男も誰かに見られる羞恥がやがて快感となつて自ら脚を開き肉棒を欲するように……

ゴリアテボックス

友野勇の小説

体験版

# 乾 颯 太 郎



# 淫 行 記 1

先輩とスクラムを組む度に颯太郎の中にある秘めた感情がほとばしる。決して叶うことのない男同士の愛情を求めながらも、行きずりの切なく淫靡な世界に嵌っていく。

ゴリアテボックス

友野勇の小説

挿 絵 6 枚 (モノクロ)

本 編 4 8 項

全 項 1 3 4 項

---

---

柔道部員 公衆便所でベチョベチョ  
猥想短編小説

---

著 者 とも の いさむ  
友 野 勇

サークル ゴリアテボックス  
Goliath Box

当作品の文章、画像等の無断転載、また複製やネット共有へのアップロードなどを禁止します。

---

---